

親子はじめてハゼ釣り教室

対 象：小学生以上の親子

人 数：20組40人

教科／分野：水辺の環境保全

授業時間数：夏休みの1日かけて午前～午後（4時間）

場 所：午前：室内（公民館等）、午後：野外（川辺）＊雨天時は釣りのみ延期

ESD プログラ ムへの 想い	江戸前の暮らしの中にあつたハゼ釣りを市民が体験できることを大切にする目的で、水辺を安全に接する学びを初めに、成功体験を重視してハゼ釣り方法がよく理解できるように室内での学びも重視しています。また、川での体験を通して護岸のゴミや水辺のきれいさ等にも気づくこととなりますので、ふりかえることで自分たちのライフスタイルの変容に進むことを期待しています。		
目標	・学習者がハゼの生態を知ることで東京湾の海の大切さを知り、自分たちのライフスタイル生き物も人も帰りたくなる「ふるさと海」東京湾を目指して、安全・安心に水辺の活動ができ、ハゼ釣りを通して気づいたことで自分たちが何ができるか考え、次の行動につなげます。		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺に接する機会の少ない地域の親子に興味を持ってもらえる。 ・自分たちの「ふるさと海」という親しみや誇りが持てる。 ・市民が調査に参加から東京湾の豊かな海づくりにつながる事が理解できる。 ・ハゼ釣りの体験活動から課題と解決策に気づくことから行動につながる。 		
持続可能 な社会 づくりの 構成概念	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性（ハゼの生態を知ることで理解できる） ・相互性（安全講習が行動につながる） ・責任性（ゴミのない社会への責任） ・連携性（ハゼ・安全な水辺・豊かな海とつながる） 		
重視する 能力・態 度	<ol style="list-style-type: none"> ① 批判的に考える力（豊かな海のためのライフスタイルを考える） ② 未来像を予測して計画を立てる力（ハゼ調査から東京湾の現状を知り豊かな海を考える） ③ 多面的、総合的に考える力（ハゼ釣りへの興味から考える力が育まれる） ④ コミュニケーションを行う力（参加者、親子が対話・共有することから育まれる） ⑤ 進んで参加する態度（ハゼ釣りが釣れることで楽しみになる） ⑥ つながりを尊重する態度（ハゼ釣りから、クリーンアップやごみ調査も可能になる） ⑦ 他者と協力する態度（多くの人と一緒にゴミ拾いに協力する） 		
プログラムの流れ			
時間	ねらい	方法 場所	内容
10分	安心・安全な水辺と、東京湾が意識できる	講義 室内（公民館等）	本日の目的が、ハゼを釣ることで、安心・安全な水辺の接し方や豊かな東京湾のために何ができるのか考えて、家族で行動につなげてほしいことを伝える。全体の流れを説明する。
20分	講習によって、自分の身を守ることで、周りの人を助けることができることに気づく。	講義 室内 体験	水辺の安全講習会 <ol style="list-style-type: none"> ① どきとした水辺の経験を質問する ② 水辺の事故事例を知る ③ 水辺の安全クイズで「水辺の安全」を理解する ④ 水辺であそぶルールづくりをする ⑤ ライフジャケットの装着方法を学ぶ

20分	ハゼの生態を知ることと海との繋がりと多様性を知る。	講義 室内	ハゼのことを知ろう ① ハゼはどこで産まれてどんな生活か？ ② ハゼがすむ川はどんなところ？ ③ 東京湾ハゼの住処調査の趣旨と方法の説明をする
30分	つながりを尊重する心を育む	講義 体験 室内	ハゼの釣り方を学ぶ ① 餌の付け方、竿の振込方、魚を外して料理 ② 竿の振込方練習（学習者自身の体験） ③ 川ごみ調査とクリーンアップについての内容説明
60分	川での安全な活動の必要性を理解する。学習が行動につながる	実習 体験 川辺	ハゼ釣り実習 ① 親子で協力してハゼ釣りをする（成功体験） ② 川辺の状態（ゴミ）に気づき行動につながる ③ ハゼの調査（体長を測る）
20分	親子でのコミュニケーションが次の行動の変容につながる	実習 体験 川辺	ふりかえり 学んだこと・嬉しかったこと・これからしたいことなど親子で相談して書いてみる。丸くなって発表する
SDGs との 関連性	目標 14 の持続可能な開発のための海洋・海洋資源を保全し、徐々可能な形で利用するに関連すると考えます。特に川ゴミ調査、川ゴミ清掃を通して「14. 1 2025 年までに、海洋ゴミや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。」に関連します。		
学校・地域等との 連携上の 考慮	学校で実施する場合は、親子ではなく授業に活用できるプログラムとして、場所も検討しながら時間等の調整をすることで活用できます。 地域との連携については、学童や子ども会のプログラムとして指導者と相談して時間や場所等を調整して活用できます。		
対象を 発展させる 可能性	安全指導をする大人が確保できれば、小学校中・高学年でも実施可能です。		
その他 補足事項	主催者が準備するもの：ライフジャケット、釣り竿、餌、釣りガイドブック等 参加者が準備するもの：バケツ、お弁当、飲料水、		

プログラム作成者名（団体名）：横山 清美（浦安水辺の会）